

ホットな神戸とクールなシドニー

神戸大学経済経営研究所
助教授 趙 来勲

今年の夏は非常に多忙でした。日本を始め、韓国、ベトナム、そしてオーストラリアにある幾つかの学会に参りました。うち二つについて書かせて頂きます。

一つは7月中旬に研究所で開かれた Asia-Pacific Trade Seminars (APTS) 年会です。二日間の同時並行セッションにて 50 近くの報告が行われ、報告者は理論と実証、また国内と海外のバランスがよく取れており、国際経済学分野では近年アジアにおいて一番大きい学会だと目されていました。この場を借りていろいろな準備、予約、交渉に非常に助けて頂いた神戸大学経済経営研究所(以下 RIEB)の渡邊さんと村瀬さんに感謝いたします。また、同機械計算室の平末さんと木村さんにも HP の書き換えを(何回も)して頂きました。皆様の御蔭で今年の APTS は順調に行われました。

私も主催者の一人として、いっぱい働かせて頂きました。まず Plenary セッションの招聘講演者を決めるのに 2 ヶ月ぐらいかかりました。著名な学者は常に研究で忙しいので、都合がなかなか付かない。そのなかで、今回 New York 大学の Jonathan Eaton 先生がエコノミークラスで来て、講演してくださったというのは、やはりアジアの国際経済界へのサービス精神を持っていたということなのでしょう。日本に来る前日ボストンにいたらしく、NY に帰って飛行機に乗り、RIEB で講演の後 NY に戻って翌日コロンビアに旅たつという地獄のような日程でした。また、時差ぼけで朝 4 時半に起きて、散歩しても食欲がなく 30 分ぐらい泳いでから少し食べたと聞いておりました。私は講演者たちをホテルまで朝は迎えに行き夜は送りましたが、彼たちと比べたら全然平気でした。

次に、8月の始めにシドニーにある University of New South Wales で Murray Kemp 先生の 80 歳記念 Conference が開かれました。Kemp 先生は国際経済学では Grandmaster と Grandfather 的な存在であり、動学的貿易モデル、貿易の利益、Custom's Union、Foreign Aid、資本の国際移動などの研究に貢献多数であり、1980 年以降にオーストラリア経済学者の中で引用率 No.1 を誇っています。77 歳になった時にも業界トップの Journal of Political Economy 誌に研究論文を掲載(RIEB の下村耕嗣先生と共著)! また、日本人のお弟子さんを沢山育てました。下村耕嗣先生と、同じく神大の太田博史先生はそのなかのお二人です。今回の Conference は光栄なことに RIEB も一主催者になっていました。西島副学長、片山先生たちも出席され、盛況でありました。Conference には Kemp 先生の元同僚や共著者の Grandmaster や Grandfather の John Chipman、Ronald Jones、浜田宏一、Ngo Van Long、Yew Kwang Ng、大山道廣、Henry Wan 先生たち等がご報告され、Kemp 先生の師である Joe Isaac 先生も座長をされました。

会場は University of New South Wales の独立大学院 Atax (Australian School of Taxation) でした。大学近くの Coogee Beach のすぐ北にあり、会議室から緑の海岸線、

赤レンガの家、青の海、雲に飾った空、そしてシドニー空港に着陸している飛行機などを全て臨むことができました。昼食後、皆が20分かけて海岸沿いの小道を歩いてみました。噂では、遠くない昔、このあたりにNudist Beachというのがあったそうです。Beachではなく、大きい岩の海側がSun Bathの暖かい浴場になっていたらしい。いまではこの小道が出来て、そういった面影はなくなってしまったようですが。

日本の某大学から事務の方二名も来られ、学会見学をしていました。お二人はコーヒー、Teabag、果物のバスケット、ケーキ、ドーナツなどが朝から晩までずっと会議室の隣室においてあることに感心したようです。夜のレセプションにもワイン、ビール、さまざまな食べ物が豊富でありました。それに比べて、RIEBで開かれる学会などでは、果物、ケーキ、ドーナツなどはもちろんなしで、コーヒー代にもいつも苦労しています。

特記したいのは、二日目の夜に全オーストラリア経済学会がKemp先生のためにCoogee BeachにあるCrowne Plazaホテルで宴会を開いたことです。オーストラリア経済学会会長のNeville Normanが宴会を主催し、Kemp先生の貢献、この記念学会にある報告と報告者の名前を含めてポエムのように述べました。お喋りがあまりも上手で、政治家かComedianか分からないような気がしました。最後に全員でHappy BirthdayとHe Is A Joyful Fellowを唄いました。

もう一つ面白いことは、宴会のテーブルにメニューがなかったことです。皆が好きなテーブルで勝手に座った後、シェンペインとワインが来ました。気がついたのが、ナイフが隣の席より一本少ない、なぜ？食事が来たらすぐ分かりました。私は魚料理で、隣はステーキでした。スープとデザートも違いました。これはいわゆるKemp先生の貢献の一つ、～経済学の不確実性～の応用でした。